

# エダマメ新品種

あおしずく  
「青雫（試作系統番号:SB1016）」

## 特性と栽培のポイント

雪印種苗(株)  
園芸作物研究グループ  
野菜研究チーム  
大橋真信

### 1. はじめに

エダマメは、ビールのつまみとして古くから夏の味覚の定番となっています。近年は、そのおいしさと栄養価の高さから、エダマメの消費は増加傾向にあり、また料理の食材としての用途も広がって、一年を通じておいしいエダマメを食べたいという要望が高まっています。

エダマメは一般に早生系（夏大豆型）の品種を用いて初夏から8月頃までに出荷される作型と、晩生系（秋大豆型）の品種を用いて9月以降に出荷される作型が多いですが、早生系と晩生系の切替りの時期である8月中旬～9月上旬の収穫に適した品種は少なく、この時期に収量が安定して、食味も良好な品種が求められています。

そんな産地のご要望にお応えして、この度、食味良好で収量性の高い中生品種「青雫<sup>あおしずく</sup>(試作系統番号:SB1016)」を発表しましたので、本品種の特性と栽培についてご紹介いたします。



▲「青雫」の草姿

### 2. 「青雫」の特徴

#### ～おいしいエダマメ用青大豆品種～

子実が成熟した段階で、種皮と種子内部が緑色になる青大豆は非常に甘みが強いため、製菓の原料や煮豆用としてよく用いられます。青大豆は一般にエダマメとして食べても甘みが強く、おいしいとされていますが、晩生の品種や毛茸が茶色い品種が多いため、栽培時期や、莢の見た目の問題から、エダマメとしての栽培はあまり多くありません。

「青雫」は青大豆品種をエダマメ栽培用に品種改良を行って育成された品種です。青大豆の持つ甘さとおいしさはそのままに、作りやすさ、莢の形状、収量性を改良しました。



▲「青雫」の種子

穫となります。

#### 2) 草姿

大葉で生育は旺盛です。草丈は高くなりますが、主茎が太くしっかりしているため強風による倒伏や折損には比較的強い傾向があります。

#### 3) 莢の形質

やや小振りですが、実入りがよく莢の太りは良好です。莢の色は極濃緑色で毛茸は白く外観がきれいです。3粒莢、4粒莢の割合はやや少なめです。

### 3. 「青雫」の栽培特性

#### 1) 熟期

露地栽培、露地マルチ栽培で「サヤムスメ」よりも5～7日遅く、「サヤニシキ」より7～10日早い熟期の中生種です。関東地方の標準栽培で播種後90日前後、東北、高冷地で95日前後での収

表1.エダマメ品種の特性および収量性

品種名	開花期 (月/日)	えだまめ		主茎		2粒莢		稔実 莢数 (ヶ/株)	平均 一莢重 (g)	多粒 莢率 (%)	規格内 収量 (kg/a)
		生食適期 (月/日～月/日)	主莖長 (cm)	節数	分枝数	莢長 (cm)	莢幅 (cm)				
平成20年6月10日播種 北海道研究農場(長沼町):露地											
青雫	8/2	9/11～9/18	50.5	50.5	3.3	5.20	1.30	94.6	2.08	17.1	86.3
他社品種F	8/5	9/9～9/14	47.0	13.5	4.9	4.93	1.20	86.2	2.22	34.4	87.1
雪音	8/18	9/25～9/30	79.4	13.3	6.8	5.48	1.43	109.5	2.09	8.9	84.2
平成20年5月19日播種 岩手県現地試験(北上市):露地マルチ											
青雫	7/8	8/12～8/18	58.0	15.5	3.5	5.37	1.36	97.2	2.49	11.3	130.9
他社品種F	7/9	8/14～8/17	52.5	15.0	4.5	5.74	1.36	79.4	2.54	36.8	116.0
サヤムスメ	7/5	8/7～8/14	33.5	12.0	3.5	6.06	1.38	55.2	2.57	27.9	82.7

### 3) 収量性

開花期・収穫期が高温期で、落花や落莢が起りやすい時期になりますが、「青雫」は莢数が極めて多く、高温条件での着莢性も安定しており、収量性は良好です。

#### 4. 適応地域と播種適期

- 1) 北海道、東北および高冷地  
5月下旬～6月中旬（露地、マルチ）
- 2) 一般地および暖地  
5月上旬～6月上旬（露地）

#### 5. 栽培の要点

##### 1) 肥培管理

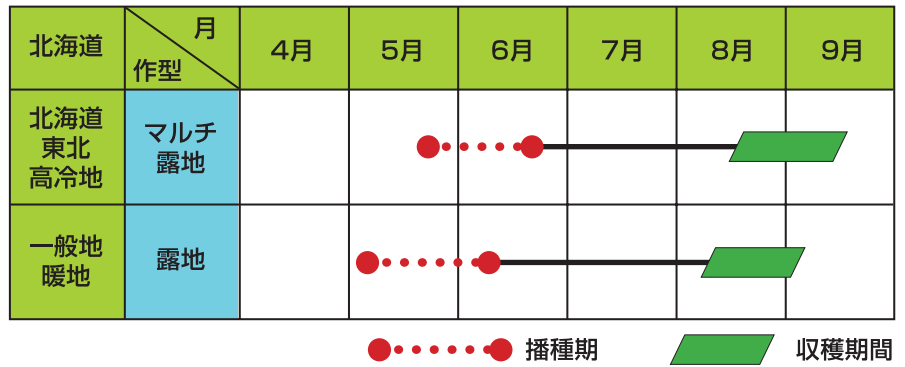
～減肥栽培で草勢を抑える～

エダマメは根に根粒菌が着生し、空気中の窒素を固定して肥料分とする特性があります。このため一般には窒素肥料は初期生育を促進するための少量だけで十分です。「青雫」は特に生育旺盛ですので、さらに基肥を控えたほうが良く、減肥栽培が可能です。逆に肥料が多いと倒伏や着莢不良の原因になるため注意が必要です。



▲「青雫」の着莢と莢の形状

図1.「青雫」の適作型



##### 2) 栽培管理

～受精を揃えて不稔莢を減らす～

「青雫」は着莢性には優れていますが、不稔莢などの屑莢が多くなると選別作業の手間が増大します。不稔莢や莢の太りの不揃いは開花期の受精不良が原因で、草勢が強すぎる場合や徒長ぎみの生育で発生が多くなります。このため、播種期を厳守し、無理に早播きをしないこと、元肥を過剰に施用しないことが重要です。また開花期以降の乾燥は落花や不稔莢の原因となります。土壤水分不足に注意するとともに、根からの水分供給を円滑に行わせるため、生育期の根痛みに注意し、中耕培土などの作業は着蕾期前までに終らせるようにします。開花期に生育が優れない場合や、天候不良の時は植物活力資材「ジャックスパワー」の施用も効果があります。

##### 3) 病害虫防除

～定期的な防除で収量、品質向上～

「青雫」は気温が高い夏期の栽培になりますので、初期生育期から定期的な病害虫の防除が必要です。特に、生育初期にアブラムシが多発すると、矮化病やモザイク病などのウイルス病を媒介して、著しい生育不良や莢の品質低下を招くことがあります。「青雫」はこれらのウイルス病には抵抗性はありませんので、防除を徹底してください。

#### 6. おわりに

今回ご紹介しました「青雫」は晩夏～初秋にかけて収穫できる、食味良好な多収品種です。本品種の特性を生かして良品を安定出荷されるとともに、その味をご堪能いただければ幸いです。



▲「青雫」の栽培風景（秋田県）